

# あらい地域ニュース

NO.363 7月号  
令和3年7月10日発行

発行 新井区民活動センター運営委員会  
編集 あらい地域ニュース編集委員会  
住所 中野区新井3-11-4  
電話 3389-1310 FAX 3389-1370



https://nakano-arai.gr.jp/  
✉ nakano\_arai@eco.ocn.ne.jp

(2019年12月16日生)  
お兄ちゃんと一緒に遊ぶのが大好き!いつもニコニコ、活発な男の子です。



おたけ 澄空くん  
大竹



寺島 央くん

(2019年8月9日生)  
一緒に、体を動かしたり、パズルをしたり、歌を歌ったり。いつも、笑顔に癒されています♡

ゆい・れい子より  
新井4丁目

やすひさ 康久・もえ 萌より  
新井3丁目

## 「リサイクル展示室」へ行ってみませんか!?



リサイクル展示室入口

～展示室のご案内～  
★開館日時:月・水・金・土・日(祝日も開館)  
午前10時30分～午後3時30分  
★休館日時:火・木(12月28日～1月4日)  
★毎月第1・3土曜日開催のフリーマーケットは新型コロナウイルス感染拡大防止の為現在**休止中**です

皆様は「リサイクル展示室」を御存じですか?場所は旧新井小学校先の西武新宿線踏切を渡ってすぐの右手にあり中野区清掃事務所に併設されています。所在は松が丘ですが新井北町会内の地域でもあり身近なところ  
です。  
展示室は無料でもらえますので、ぜひ一度お出掛けになつて  
ください。  
それでは展示室のご案内をいた  
しましょう。

◎フードドライブの提供・受付  
※「もったいない」を「かたじけなく」へ  
まだ食べられるのに捨てられてしまつ「食品ロス」を減らすため家庭で食べきれない食品を子ども食堂等の福祉団体に寄付する活動を行っています。家庭で食べきれない、常温保存が可能な食品のうち、賞味期限まで2ヶ月以上ある缶詰、レトルト食品、菓子類、調味料や国産米(精米一年以内)等が対象です。  
(井出)



リユース展示品

へリユース品の展示・提供  
※展示しているリユース品はすべて無料で持ち帰ることができます。  
◎家具など  
粗大ごみの中から、まだ使用できる家具などを選び、毎月1日から約2週間、50点を展示しております。希望者の多い展示品は、抽選を行い当選者を決定します。  
主な品目は衣装ケース・スチールラック・カラーボックス・いす等です。時にはウクレレ等の楽器もあるそつです。  
◎古着  
施設内で回収した古着の一部を常時展示しております。  
大人用から子ども用までたくさんの季節に合った古着があります。  
◎図書(文庫本・コミックなど)  
施設内で回収した文庫本やコミックなどを展示しています。

◎ごみの減量、リサイクル情報誌の発行について  
ごみの減量、リサイクルをさらに推進するため情報誌「ごみのん通信」を毎年4回(5、8、11、2月(予定))発行しています。区民活動センター等においてあります。  
★2019年度の中野区の「一人一日あたり」のごみ排出量は約460g、これは23区最少の数値で第1位となりました。  
◎資源の回収拠点  
リサイクル展示室は以下の資源の回収拠点となっております。◎古着・古布 ◎紙パック(牛乳パックなど) ◎インクカートリッジ ◎使用済小型家電9品目 ◎使用済蛍光管 ◎乾電池 ◎家庭用廃食用油 ◎文庫本・コミック どうぞご利用ください。

余滴 人口問題  
我が家の隣のアパートに台湾籍の子留學生が越してきた。わが家で歓迎のお茶会を開き、交流の一步を踏み出した。彼女は父親の仕事の関係で、四歳の時にニューヨークに移り、そこで高校まで修了したが、大学をどこにするかというとき、父親に日本への留学を奨められ、現在東京にある大学の四年生とのことである。父親が何故日本への留学を奨めたのかは、深くは尋ねなかった。  
これを機会にわが国の人口はどうなっているのか、またあちらこちらで外国籍の方らしい人々が目に付くが、どの位の方が在留しているのかについて興味湧き、インターネットで検索してみた。  
わが国の人口は、一九六七年に一億人を超え、二〇〇八年に一億三千万人程のピークに達したが、その後減少に転じ、現在一億二千万人余となっている。この傾向が続けば二〇四八年には一億人を割り込み、同六十年には八千七百万人にまで減少するとの推計がある。  
国力をある程度維持するには、ある程度の人口を維持することが必要と思われるが、その関連でも人口問題は大きな課題で、今後どうなっていくのか、みんなで注視していくべきかと思われる。現在外国籍の方は、全国で二八八万人、中野区には、総数三十三万余人のうち、一万六千余人である。  
今後人口問題がどうなっていくのか、いずれにしても外国籍の方々とも友好的に交流できることを願って止まない  
(小坂)

